

令和4年度アスベスト大気濃度調査検討会

議 事 概 要

1. 日 時

令和5年2月15日(水)10:00 ~ 11:20

2. 場 所

Web会議形式

3. 出席者

(座長) 山崎淳司座長

(委員) 貴田晶子委員、小西淑人委員、寺園淳委員、平野耕一郎委員、
小坂浩委員(欠席)

(環境省) 太田大気環境課長

堤大気環境課課長補佐

児玉大気環境課課長補佐

桑原大気環境課課長補佐

長澤大気環境課係員

(事務局) 株式会社環境管理センター

4. 議 題

(1) 令和4年度アスベスト大気濃度調査結果について

(2) 令和5年度アスベスト大気濃度調査計画について

(3) その他

5. 配付資料

資料1 令和4年度アスベスト大気濃度調査結果について

資料2 令和5年度アスベスト大気濃度調査計画について

参考資料1 解体現場の地点図及び現場写真【委員限り】

参考資料2 No.2地点旧石綿製品製造事業場 測定結果まとめ【委員限り】

参考資料3 No.41 地点破碎施設 測定結果まとめ【委員限り】

参考資料4 精度管理報告書【委員限り】

【議事概要】

(1) 令和4年度アスベスト大気濃度調査結果について

<事務局より、令和4年度調査の結果について報告>

- No.37はかなり高い濃度。作業員に被ばくは無かったか、セキュリティゾーンの撤去作業の状況は。(山崎座長)
⇒マスクは第1室で外す可能性が高いので、ばく露は否めない。養生撤去前調査を別途行っているが、室内の濃度が一桁台まで落ちており、外への漏えいはなく減衰していたので問題はなかったと考えられる。(事務局)
- 測定を実施した更衣室(第1室)でマスクを外すこともあるため、ばく露は否めない。クロソライト除去の実施項目であるが、SEM 分析でクリソタイト、アモサイトが出てきている。先に行っていた天井のケイ酸カルシウム板除去時のものが、滞留して残っていた可能性も考えられる。
また、ファスナーを閉めているということで、おそらく外には漏れていないと思うが、集じん排気装置に向けての気流が、生まれていない可能性がある。負圧であったとしても、入口(ファスナー)を開放すると負圧が担保できないため、意図的に入口を閉めて負圧を担保している可能性もある。負圧対象(容積)が大きすぎるのではないかと思う。(小西委員)
⇒現場では、集じん排気装置は3台稼働していた。集じん排気装置の排気量の計算では、負圧は保たれていたかと思うが、ご指摘の通り、足りていなかった可能性もある。ファスナーの下から空気が入っていても上部の空気は置換されなかった可能性がある。(事務局)
- 結果的には、適正に機能していなかったのではないかと思う。アモサイトの割合が高いので、ケイ酸カルシウム板だけではなく、耐火被覆材にも含まれていた可能性もあり、事前調査の正確性も危惧している。(貴田委員)
- アスベストの種類によって、沈降速度が異なる。ただ単に測定するのではなく、いつ測定するかという点も重要。(平野委員)
- 図面を見ると、この建物は高層階となっているが、他の階とセキュリティゾーンが共用になっていなかったか。(小西委員)
⇒共同住宅の、1階部分のみに負圧隔離養生を行っており、他の階と共用していない。(事務局)
- 破碎施設について、今年も石綿繊維を検出した。熊本地震の廃棄物を処理していたかと思うが、搬入されている廃棄物は変わっているか。(貴田委員)
⇒災害系のごみは、熊本地震当時に入っているが、平成 30 年くらいには災害ごみの処理等は、終了している。現在入っているのは、熊本県内からのコンクリートがらなどである。(事務局)
- 検出されたものは、コンクリートがら中の骨材由来や自然由来のものという理解でよいか。(貴田委員)

- 昨年度の調査で、当該地点の繊維状物質は、ほとんどがへき開粒子だが、繊維状粒子も若干あるという認識であったが、今年度も同様か。(山崎座長)
⇒ご指摘の通り。今年度の結果も、昨年度と同様。(事務局)
- これまでの調査とアスベストの種類が変わっていないので、骨材に入っている天然鉱物が有力。それ以外に、この地域にはトリモライト鉱山があったので、天然由来のもの混入の可能性もある。(小西委員)
- 大気濃度調査でいうバックグラウンド地域とは、どのようなバックグラウンドを指しているのか分からない。きちんと定義したほうが良いのではないか。内陸山間地域は、地質学的にバックグラウンドとならないこともあると考えている。他の委員の意見を聞きたい。(平野委員)
- 直接アスベストと関わりがないという意味で、バックグラウンドという文言が使われてきたが、実際には、住宅地域、商工業地域でも近くで解体があれば、その影響を受ける可能性がある。
以前も、バックグラウンドをどこで測定するのかの議論があり、東京都は、蛇紋岩の影響を受けないところとして、父島でバックグラウンドを測定したという経緯もある。そこから考えると、名称については、何らかの検討を行う必要があると思う。(小西委員)
- 地域区分については、昭和 60 年前後で使われてきた区分であり、発生源については、石綿製品の製造工場や廃棄物処理、蛇紋岩地域、高速道路とし、それ以外の場所は、基本的にバックグラウンドという名称で整理された。
名称を変えることには賛成だが、この件はアスベストの大気濃度管理をどのように考えるかにも共通する話題である。現在、石綿製品の製造工場が存在しない中で、現在の主要な発生源と考えられる解体現場周辺を、いかに管理していくのか検討し、バックグラウンドと発生源の管理のあり方を併せて考えていく必要があると思う。(寺園委員)
- 見直しは必要だが、この検討会というより、まず環境省で検討が必要ではないかと考える。(山崎座長)

(2) 令和5年度アスベスト大気実測調査計画について

<事務局より、令和5年度アスベスト大気実測調査計画について説明>

- 解体現場に注力するというので、継続調査地点は年1回としてよいと思う。時期は、年間のスケジュールを考慮して決めてもらえればよいと思う。(貴田委員)
- 年1回にしても問題なく、時期もこれまで夏や秋ときちんと区分けできていなかったもので、夏から秋にかけて行うのが妥当ではないか。特に冬は、積雪がある場所については、測定をしても意味がないので、積雪の影響がない地域の場合は冬を含めてもよい。(小西委員)
- 全体としては賛成。継続調査そのものは重要な意義があり、大気濃度の減衰が見えていることはモニタリングの成果である。一方で、発生源が解体現場に移行しているため、一般大気の測定が年1回になることは、妥当であろうと思う。季節は、降雪等に注意すれば、それ

ほど大きな差はないかと考えている。

前言と重複するが、検討会の意義として元々のモニタリングだけでなく、実際に重要な大気環境管理もどこでどう検討するかも考えていただきたい。解体現場で測定することが大事だが、セキュリティゾーンの状態や負圧管理など、個々の解体現場での問題点の洗い出しとその改善を、この検討会でやるのか別の場でやるのか、事前調査の結果等の管理をどう行っていくかなど、本検討会での業務と組み合わせで、相乗効果を出してもらおうのがよいと思う。

破碎施設周辺の話も、自然由来の可能性も大きいと思うが、そのような発生源となり得る場所の管理を、どのようにしていくのかも検討いただきたい。(寺園委員)

⇒これまでも、調査結果については各地方公共団体に伝え、事業者指導等していただいている。提案いただいたことも踏まえ、例えばこのような事例を他の地方公共団体へ水平展開して、今後の指導に活かしてもらおうということも考えられるので、検討していきたい。(環境省)

➤ 特に来年度は、解体現場の測定数を増やすなら、実際にその作業がどう行われているかのチェック項目も作って現場に行くべきではないかと思う。除去する建材の種類によって必要な設備が異なる。工法によって発じん状況が異なってくる可能性がある。現場に対応したチェック項目を設定し、調査に行く者がチェックできる仕組みが必要なのではないか。特に解体現場の場合は、事前調査結果との整合性の突き合わせも必要と考える。(小西委員)

➤ これまで、調査は事務局単独で実施されていると思うが、地方公共団体と連携されてはどうか。来年度の解体工事の調査にあたっては、事前調査結果の報告情報も併せて確認するとしているので、そのようなことを意味しているのかと思うが、提案しておく。都道府県への指導や議論する場を設けているか。(貴田委員)

⇒この調査については、地方公共団体から解体現場の推薦をいただき、調整がつけば、地方公共団体に現場へ来ていただいている。引き続き、連携して調査と指導ができればと考えている。

地方公共団体への指導やスキルアップについては、毎年、地方公共団体職員向けの技術講習会を開催している。最近では、事前調査結果の活用の仕方など、他の地方公共団体での取り組みを水平展開しており、様々な事例共有していく中で総合的なスキルアップを進めていきたい。

チェック項目については、誰が調査に行っても、必要な情報を漏れなく調査・確認できるよう整理していきたい。(環境省)

➤ 解体現場に注力していく方針は非常によい。施設の施工年によって、使用されるアスベストの種類・量が異なるし、改修情報なども役立つと考える。(平野委員)

➤ 北海道と熊本の調査で、天然由来の問題が出ている。対応策は、この委員会でできるかわからないが、どのような対応をとるか環境省で検討してもらいたいと思う。(貴田委員)

(3) その他

特に無し。

【閉会】

以上